

PHD

PEACE, HEALTH & HUMAN DEVELOPMENT

LETTER

122

2013. 3

- PHD Movement vol.6 . . . P. 2-3
- 30期研修生レポート . . . P. 6-7
- タイ北部・帰国研修生短信 . . . P. 11

PHD運動とは1962年よりネパール、東南アジアを中心に医療活動に従事した岩村昇医師の提唱による国際社会福祉運動です。これまで自分のためだけに使っていた時間、技能、財などの10パーセントをささげて、平和（Peace）と健康（Health）を担う人づくり（Human Development）をすすめ、共に生きる社会をめざし、1981年からはじまりました。

発行：公益財団法人PHD協会 理事長 今井鎮雄
住所：〒650-0022 神戸市中央区元町通5-4-3
元町アーバンライフ202
TEL：078-351-4892 FAX：078-351-4867
Email：info@phd-kobe.org
URL：http://www.phd-kobe.org
郵便振替口座：公益財団法人PHD協会 01110-6-29688



『世界に平和まだまだ少ない。
自分たちよりも生活が大変な人はたくさん居る。
機会がない人に農業や保健のことを伝えたい』

自分の地域のためだけでなく、
他の地域まででかけて活動中。
PHD運動の目指すところを体現するチャーユーさん。

PHD Movement vol.6

～分かち合い実践録～

事務局長 坂西卓郎

研修生との信頼関係を考える

◆「研修生は満足していない」

2012年度も無事研修を終えることができた。皆様に感謝の一言に尽きる。この場を借りて御礼を申し上げたい。

一年が終わったところで、2012年度の研修の舞台裏を紹介したい。PM-vol.3でも2011年度研修生のエリザさんとのひと波乱を紹介したが、2012年度も色々あった。今回は研修生と職員との信頼関係の構築についてである。

PHD協会の1年間の研修では技術や知識、様々な意味での経験を得ることも大変重要であるが、私たちと村に帰った研修生と一緒に村づくりをやっていくパートナーとして、信頼関係をきちんと構築するということが大事にしている。「研修生は研修に満足していない」という指摘がある方からいただき、その点が十分ではないのではないかと感じた。

◆研修生と腹を割って話し合う

それを受けて、2月8日～10日に行われたアクションプラン策定合宿で研修生と話し合う時間を持った。

流れは雑談で結婚の話をしてきたこと。デリさんが「近くで結婚すると妻とケンカした時にすぐに家族にばれるから恥ずかしい」という話をして、楽しい雑談として「結婚生活での喧嘩



合宿では車座になって話し合いました

は是か非か」という話をしていました。アチャンマさんは「ケンカをしない夫婦はいない」と発言し、「我慢して溜めるより、小さなケンカをした方がいいのでは」という結論に。

そこから私が「私たちは皆と信頼関係が欲しい。私たちが良くなかった部分もある。我慢はせずに言いたい」と切り出した。楽しい空気が一変、重苦しいものとなった。腹に抱えるものがあるからこその空気。が、ランマヤさんからは「私はPHDの研修にはとても満足しています」という発言が出てしまう。自分たちの関係性づくりの未熟さにショックを受ける。ダメか、という想いが頭をよぎる。

◆研修生の不満を聞く

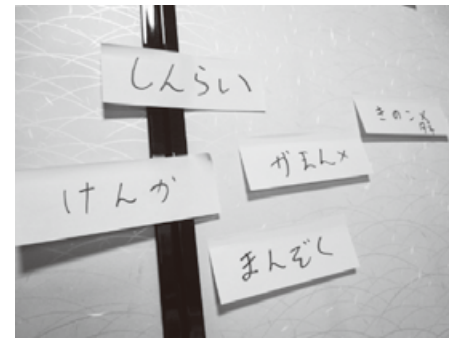
しばしの沈黙の後、デリさんが「私はきのこを勉強したけど、種菌のことは勉強していないから村でできない」と発言。この時点で帰国までは一ヵ月あったので「では勉強しに行きましょう」という話になった。

この発言をきっかけにして、「村で活かさない研修」への不満がいくつかでてきた。それらはちょっとした行き違いから来るものだった。例えば「養鶏の研修に行ったけど、村では鶏は多くない」とか「材料がないから勉強は良くて村で使えない」といったものだ。

そこは「全てをそのまま村で活かして欲しい訳ではない。いろんな方法を学びそこから村に合う方法を考えてもらいたい」というPHD協会の基本方針を改めてシェア。ただ今年それを「一緒に考える」というプロセスが弱かったのだと反省、研修生には素直にお詫びした。ただこの点でも一ヵ月あるのでまだ間に合うということできつくりと話し合うことにした。

お互いがそれぞれに思っていることを出し合った後、デリさんが「信頼、

満足、気づく、いいゴール」とこの合宿で学んだことを使って表現してくれた。この時点で私たちの間にはそれまでとは違った絆のようなものが生まれつつある感覚があった。



今回のキーワードです

◆大きく成長するアチャンマさん

一通り終わったかな、と思えたところでアチャンマさんが「心から言いたいことがある」と正座して話し出す。「私は悪いことをしました。謝りたい」と発言。実は西日本研修旅行中に彼の行いがきっかけでちょっとしたトラブルが発生した。それについての謝罪だった。「ずっと謝りたかった。でもその機会がなかった。遅くなって心が痛い」と。

この発言には感動した。アチャンマさんは18歳。その能力や意識の高さは指導者を初め誰もが認めるところだ。一方、若さゆえの過ちもまた見られた。しかしながら、当会での一年の研修ではそれらも含めた人間的な成長が期待されている。遠い外国に一人であって、辛いこと苦しいことはたくさんある、かつ村の期待を背負っている。そういったプレッシャーを乗り越え、人間的に大きく成長する。それは帰国後の彼はこの時に一つの殻を破って成長した。加えて「私は知らないところで人を傷つけていると思う。それも教えて欲しい」とも。思い返せば私が度々注意した時もふてくされるなどの態度はなく、よく素直に聞いて行動を改めて

いた。彼によると「それは怒るではなく、心の教育。私はもっと欲しい」とのこと。先の研修の話も「私たちがきちんと希望を伝えられなかったことも一因」と振り返るなど、器の大きい発言してくれた。続いてランマヤさんも「コミュニケーションが大事。これからそうしたい」と語り、これからの協働を誓い合った。



研修生と分かり合えた瞬間

◆アジ考・内山信子さんの言葉

2012年度、PHD協会は新体制に移り、不安定なところがあった。これはひとえに未熟な事務局長である私の責任だ。そんな中、研修生との対話が充分ではなく、一時信頼関係が充分ではない時期もあった。しかし、この時を境に急速に関係性は良くなった。まさに「雨降って地固まる」だ。

ここで当会を長くそして力強くご支援いただいている「北九州・アジアを考える会」の内山信子さんの言葉を紹介したい。

「私たちはメンバー同士でよくケンカするんですよ。でもね、この祝町という同じ地域で住んでいて、同じ志を持っている私たちが分かり合えないんだったら、世界平和なんてとても無理でしょ。だからケンカしながら言いたいことを言い合って、良い地域を作っていきたいと思っているの」。

PHD協会は「共に生きる社会」を目指している。内山さんの言葉を胸に刻んで、研修生と時にはぶつかりながらも信頼関係を作り、共に生きていきたい。その地道な一歩が世界の平和と健康につながると信じている。

ネパール新地域からの研修生招聘

当会では同じ地域から3～5人の研修生を招聘するという方針がある。これは帰った研修生たちが協力し、チームとして活動して欲しいという願いを込めたもの。ガハテ村からは既に5人の研修生を招聘し、村は違うが同地域にさらに2人の研修生がいる。そこで同地域からの招聘はひと段落ということで、2013年度からは新しい地域から研修生を招聘する。

その地域はガハテ村と同じカブレ郡。マンガルタール地区ピンタリ村だ。同地域ではSAGUNという貧困や差別などの問題に取り組むNGOが活動しており、カウンターパートとして協力してくれている。事務局長は日本でもよく知られた国際的なファシリテーターであるカマル・フィヤルさん。フォローアップに協力してくれる予定だ。



ピンタリ村の母親グループとの会合

◆ガハテ村と同じタマンの村

ピンタリ村はガハテ村と同じくタマンの人たちの村。そして同じように水で苦しみながらも自分たちで小水力発電をつくることで克服してきた村。ただ有機農業に関してはまだ進んでいないということで今回の招聘となった。ガハテ村の研修生たちと相互に刺激し合うことも期待している。

ピンタリ村からの第1号の研修生はプレムさんという男性で38歳。既に地域で色々な活動を引っ張ってきた人であり、当会としても期待している。プレムさん、SAGUNとともに新しい地域での活動が始まる。

チャユーさんの地域を超えた活動

2007年度タイからの研修生チャユーさん。今号の短評(p.11)にもあるように地域では保健衛生の住民ボランティアとして活動をしている。そして、今は自分の住んでいる地域だけに留まらずに活動を展開している。

チャユーさんはタイに住むカレンの人だが、カレンの人は国境をまたがって複数の国に居住している。伝統的には半農半狩猟とか。そこに近代国家が国境というラインを後から引き、同じカレンの人でも国が違うという現在の状況が生まれた。国が違うと状況も違う。現在、チャユーさんはある国境付近の村でも活動している。

◆チャユーさんの熱き想い

チャユーさんは「世界に平和まだまだ少ない。私たちと比べて国境近くの人たちは生活が大変。農業も勉強したいけど機会がない」ということで、実際に国境付近まで出かけ機会のない人たちに農業指導をしている。

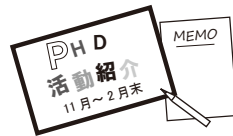
お連れ合いさんも国境付近に住んでいたカレンの人ということもあってか、その想いにはただならぬものを感じる。チャユーさんは次のように続ける。「同じカレンの人たちのために私にできることをがんばりたい」。チャユーさんの他者のための活動、日本での学びは地域を超えて広がっていつている。



農業のレクチャーを行うチャユーさん

*紙面の都合により、「温故知新提唱者 岩村昇語録」はお休みさせていただきます。

- 11月**
- 4日 三木金物祭り バザー (芳田・安本)
 - 6日 のぞみ保育園 交流会 (今里・研修生3名)
 - 7日 国際高等学校 講義 (今里・研修生3名)
 - 20日 関西学院大学三田キャンパス 講義 (井上)
 - 25日 米山セミナー (井上)
 - 26-7日 第2回 NGO 相談員会議 (坂西)
 - 27日 明石城西高等学校 講義 (今里)
- 12月**
- 4日 立命館大学草津キャンパス 講義 (坂西)
 - 5日 神戸 NGO 協議会 (坂西)
兵庫県協同組合連絡協議会 幹事会 (坂西・研修生3名)
 - 8日 神戸学生青年センター日本語サロン (井上)
タイスタディツアー説明会 (川原・芳田)
JICA アフガニスタン青年研修 講義 (坂西・今里)
 - 9日 コープ住吉ボランティア活動報告会 バザー (川原・芳田・安本)
 - 10日 ユニセフ評議員会 (坂西)
 - 14日 NGO 相談員推進会議 (坂西)
 - 15日 ソディ例会 (芳田・安本)
 - 16日 国際ソロプチミスト神戸クリスマス会 (芳田・ランマヤ)
 - 17日 阿弥陀小学校 交流会 (今里・研修生3名)
 - 23日 タイスタディツアー ~1月2日 (坂西・芳田)
 - 27日 神戸市シルバーカレッジ三珠会 文化交歓会 (今里・研修生3名)
- 1月**
- 5日 ソディ 布・小物類の値札付け (芳田・川原・安本)
 - 7日 ひょうご NPO 研究会「寄付文化をすすめるには？」参加 (坂西・井上)
 - 8日 神戸市シルバーカレッジ国際友の会 懇親会 (今里・研修生3名)
 - 18日 コープこうべ 平和企画の会 (井上)
 - 23日 国際ソロプチミスト高山 バザー
 - 30日 南山短期大学 インターン2名受入
- 2月**
- 2-3日 ワンワールドフェスティバル NGO 相談員として (坂西・井上)
 - 7日 JANIC 「管理職のためのメンタルヘルズ講座」 出席 (坂西)
 - 15日 コープ深江 レインボースクール (芳田・ランマヤ)
 - 18日 コープ三田南 レインボースクール (今里・ランマヤ・アチャンマ)
 - 21日 国際ソロプチミスト姫路西 支援金授賞式 (坂西・ランマヤ)
チャリティバザー (芳田・安本)
 - 23日 国内研修生説明会
 - 24日 コープ活動サポートセンター西宮 バザー (芳田)
 - 27-8日 外務省 NGO 職員受入れ研修プログラム (坂西)



ロータリークラブが生み、育てて下さった PHD 協会

ロータリー米山記念奨学会

お世話になりました



最後の挨拶をさせていただく (篠山ロータリークラブ)



神戸南ロータリークラブ
カウンセラー・新玉正男さんと

2012年5月から2013年3月までお世話クラブとして神戸中、神戸南、篠山ロータリークラブの皆さまに、第30期研修生を受入れていただきました。この一年を振り返り、ランマヤさんは「最初はすごく緊張していたけど、日本語がわかるにつれて例会でお話するのが楽しかった」とのことです。

デリさんは、卓話の際に自らの虫歯体験を例にあげ、保健衛生の重要性を熱弁、2月提出の奨学生レポートはA4用紙7枚を書き上げました。

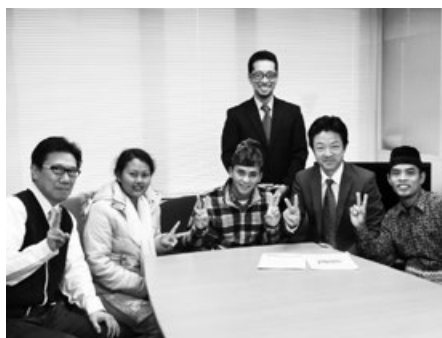
また、アチャンマさんは新年例会に出席させて頂き、その際「ロータリアンの方々お一人お一人から激励を受け、

嬉しかった」と言っていました。日本での研修を終えた研修生たちは、国に帰って来たら本番です。帰国後の様子も暖かく見守って頂ければと思います。ありがとうございました。(井上理子)



最後の挨拶をさせていただく (神戸中ロータリークラブ)

日本労働組合総連合会 (以下連合)、訪問記



当会は毎年、連合の皆様から「愛のキャンパ」をいただいています。同キャンパは研修生の研修費に充当させていただいており、毎年東日本研修旅行の際にご報告に伺っています。今年度も11月15日にお時間をいただき、組織活動局の坂局長にご報告しました。

坂局長の全身から発せられる熱量に触発された研修生たちは口々に「村に帰ってみんなのためにがんばりた

い!!!」と今までになく熱く村への想いを語ってくれ、とても良い時間を持つことができました。

最後に坂局長より次のようなコメントをいただきました。「遠い国にやってきてよく研修をがんばっている。その熱い気持ちにガツンときた。来てくれてありがとう!」。連合の皆様物心両面のサポートにこの場を借りて御礼申し上げます。(坂西卓郎)

退職のあいさつ 川原 桂



カレンの布グループのメンバー、ベトゥさん(左) 布の買い付けでいつもお世話になりました

PHD協会で啓発担当として6年、本当にたくさんの方々にお世話になり、ありがとうございました。「PHDならではの」の素敵な皆さんに出会えたことが、何よりも自分の宝です。

PHD協会での学びは数多いのですが、日本の国内問題、特に水俣の公害問題や釜ヶ崎の野宿者問題について、研修生や勉強会参加者の方々や学んだことが大きく、自分の生活を見つめなおす機会となりました。日々の生活の小さな行動の積み重ねが「共に生きる」社会に繋がるということを学んだので、コツコツと実行していこうと思います。

8月にタイ・カレンの布グループのお母さんたちとミャンマーの研修生に退職の挨拶をすることができました。「また村においで!」とあたたかい言葉をもらい「絶対また来るよ」と誓い、涙しました。PHD協会で働き、この繋がりを持ててよかったと心から思いました。

職員という立場からは離れますが、PHD協会は私にとって魅力的な場所です。今後も事務所で活動をしたいと思しますので、今後ともどうぞよろしくお願いたします。

坂西卓郎より
川原さんとは2010年度から3年間一緒に働きました。当時既に3年の経験があった川原さんは頼れる先輩として「何かあったら川原さんに聞く」という存在。特に抜き出していたのはその前向きな姿勢から生まれる推進力。新しい事をする時に彼女の存在は私にとって大きな助けで、彼女が居なければ私は今の半分も仕事が出来ていません。そんな彼女が退職するのはPHD協会にとって大きな痛手であり、寂しいこと。しかしながら、PHD運動は退職して終わりでもないはず。川原さんとは今後も共生社会をつくる仲間として一緒に歩んでいきたいと思えます。

日々是東奔西走

研修担当 今里拓哉

私は7月の初め、30期生にとって最初の個別農業研修が終わる頃から当会で働き始めました。お会いする方々、行く先々の全てが初めてで、至らない点ばかりでありましたが、関わってくださった全ての人々からの多大なる支えにより、何とか今年度を乗り越えることができました。

ちにとって有効なのだろうか?」ということがありました。当会に携わってくださっている支援者でこの疑問をお持ちの方は少なくはないようです。確かに気候も異なれば、活用できる道具やインフラ設備など、何から何まで研修生の出身村と日本の研修先とは異なります。そんな中で有機農業や保健衛生の研修をし、帰国後教わった通りに全てを実践することは難しく、例え実践できたとしても同様の結果が得られるとは限らないのです。

機農家によって実に異なるということです。各々の有機農家は自分自身と土地に合った方法を、試行錯誤しながら編み出されています。有機農家の数だけ有機農法はあり、一つの正しい方法があるわけではないのです。

同じ日本においてもその農法が異なるのであれば、それがインドネシアやネパールとなればなおさらです。結局のところ、研修生たちはかつて指導者の方々がしてきたように、各々の土地に合った、それぞれのスタイルを探さなければならないのでしょうか。技術的な有機農法の習得ももちろん大事なのですが、むしろ大切なのは自分の有機農法を「探求する心」であると思えるようになりました。当会の研修では、有機農業や保健衛生だけでなく、釜ヶ崎の貧困や水俣の公害問題など、それぞれの分野において長い間取り組まれてきた方々にお会いします。その方々と共に過ごす時間を通じて、研修生も各々が抱える課題の答えを探求する心を育てることが、当会の研修が目指すところなのだと考えています。

PHD 研修事業に対する疑問

どの分野の仕事にも言えることかとは思いますが、当会のような国際協力と言われる分野においても、その活動に対する疑問は尽きません。それもそのはずで、多くの団体が目指す「平和」や「格差是正」や「多文化共生」などは一向に達成されていません。そして当会で働くこの8ヶ月の間にも日々自問し、また多くの方々から疑問を投げかけていただきました。

その一つに、「出身村とは異なる環境である日本での研修は、海外研修生た

探求心を育む

それでも私は、アジアの村人に日本で研修してもらった当会の研修スタイルは有効であると考えています。私はこの8ヶ月間に多くの有機農家の指導者にお会いしました。わずかな時間ですが、主に研修生を指導者のもとへ送り届ける際などに、指導者の畑や田んぼを見学させていただき、時には有機農業を始めるきっかけや現在に至るまでのお話を聞かせていただくこともありました。そして私なりにわかったことは、日本国内においても有機農法は有

研修旅行報告

東日本研修旅行

11月12日～21日

- 長野県
 - 日本キリスト教団松本教会
 - 塩尻めぐみ幼稚園
- 山梨県
 - 山梨英和中学校・高等学校
 - 山梨YMCA
- 東京都
 - 全日本自動車産業労働組合総連合会
 - ロータリー米山記念奨学会
 - 日本労働組合総連合会
 - 梅ヶ丘教会
 - 生協総合研究所
 - アークス仏教国際ネットワーク・勝楽寺共同保育所にんじん
- 神奈川県
 - 地球の木
 - 山崎・谷戸の会
 - こどもの広場 もみの木クラブ
- 愛知県
 - トヨタ自動車労働組合
 - 小牧幼稚園
 - アークス東海・想念寺
 - 星城中学校
- 岐阜県
 - 中濃教会
 - ソロプチミストかかみ野



小学校での交流会の様子



広島原爆資料館にて平和学習

西日本研修旅行

1月12日～27日

- 鹿児島県
 - かごしま有機生産組合
 - だるま保育園
 - 出水小学校
 - スローカルチャースクール
- 熊本県
 - 水俣病センター相思社
 - ほっとはうす
 - 熊本YMCA
 - 菊池恵楓園
- 福岡県
 - 祝町小学校
 - 若園小学校
 - 旭ヶ丘会館交流会
- 山口県
 - 梅光学院大学・梅光女学院高等学校
 - あい・ネパールの会
 - 岩国みなみワイズメンズクラブ
- 広島県
 - 平和学習
 - 共生庵
 - 灰塚小学校
 - 仁賀小学校
 - 三良坂小学校
 - 灰塚コミュニティセンター交流会
- 岡山県
 - 岡山YMCA
 - ホームレス支援さすな

南山大学短期大学部からインターンを迎えました

約10日間インターンとして迎えた鈴木さん、田邊さんの感想をご紹介します

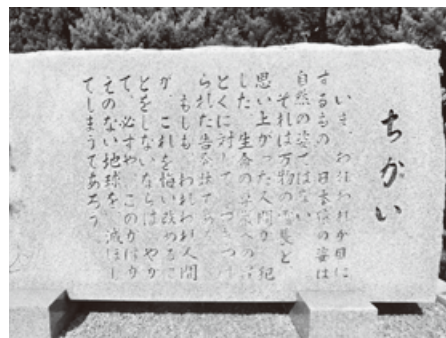
鈴木愛望さん

このインターンシップでは釜ヶ崎や淡路島への研修にも同行させていただき、国内の問題を実際に自分自身の目で見て感じるという貴重な経験を行うことができました。アジアの村の生活や国際問題、NGOについてのお話も沢山聞き、自分自身の生活や生き方を足元から見直し自分から変わっていくことが国内の社会問題の解決や、国際協力への第一歩なのだと感じました。インターンを通して出会った方々は皆さん優しく、本当に素敵な方ばかりでした。この交流を通して、人との出会いや関わりを大切に生きていきたいと改めて強く思いました。約10日間という短い間でしたが、本当にありがとうございました。



田邊美那さん 鈴木愛望さん

三木市総合保健福祉センターでの離乳食研修に同行



淡路島モンキーセンターにある石碑

田邊美那さん

私はこのインターンを通して、多くのことを経験し、多くの方と出会うことができました。淡路島研修での活動ではモンキーセンターに行き、野生のさるを真近で見ることができました。その中には奇形になってしまったさるも何匹か目にし、衝撃的でした。石碑にもあったように、さるの場合は農業の影響が手や足に現れるようで、さるから人間への「告発状」であるなど本当に実感しました。今回学んだことの実事もしっかり受け止め、消費者側である自分自身ができることを考え行動していきたいと思っています。私はこれからもたくさん経験したくさん勉強して、心の豊かな人になりたいです。自分の周りをもう一度見直し、決して当たり前ではないひとつひとつのことに感謝の心をもっていきたいです。本当にありがとうございました。

第16期国内研修生レポート それぞれの1年とこれから

安本真理子さん



研修生から学んだこと

研修生たちと話していると、自分たちの生活の当たり前のことが本当に必要なのか？と考えさせられました。例えば電気。ランマヤさんの家の照明は電球が1つだけ。その代わり、ご飯は家族全員が集まってきて1つの灯りの下で食べるそう。農業にしても機械はないけれど、田植えの時は「手伝って」と呼びかけると村の人たちが来てくれる。日本を振り返ると、「村ではおじいさんが一人で農業をされていて寂しい」とアチャンマさん。便利さと引き換えに助け合う事が少なくなり、便利になったはずなのに忙しい毎日。何だか生き

づらい雰囲気があるのが今の日本だと思います。

豊かさとは

また、西日本研修旅行では水俣病やハンセン病など日本の負の部分を選び、人ではなく経済を優先させてきた歴史を知りました。現在でも原発を巡る動きを見ていると、同じような事が起きかねない危うさを感じずにはられません。1年間の研修を通じ行き着いたのは、幸せとは気の合う人たちと手作りのご飯を頂けることだというシンプルな答えでした。まず、モノやお金中心の生活を見直し、将来は農的な暮らしができるよう、具体的な道のりを考えていきたいです。研修生と同じく、私もこれからがスタートです。



指導者の方々にもお世話になりました



西日本研修旅行の道中、研修生たちと

藤原峻悟さん



国内研修生としての1年間を振り返って

農業に興味を持ったのは、大学で野菜を育てている部活に入ったことが始まりでした。農業について調べていくと、普段当たり前だと思っていたことが、実は違いました。そして、前々から関心のあった、国際協力に農業を結び付けたいと思い、PHD協会と関わらせてもらうようになりました。

私はデリさんの農業研修に数回だけ同行しました。彼からは農作業の楽しさと姿勢を教えてくださいました。無理

の無い範囲でテキパキと農作業をする姿。自発的にどんな農作業も誠実に取り組む姿。指示待ちの私としては、どれも見習うことだらけでした。「農作業、大変、でも、嬉しい楽しい」私の好きなデリ語録の一つです。

研修生と会話を重ねていくと気づくことがあります。それは、彼らは自分たちが住んでいる地域の問題について考えているということです。彼らは「ネパール、インドネシアを良くしたい」、つまり「国」についての話しをあまりしません。翻って私は「日本は…」と話してしまいます。でも、人と人との繋がりから社会、そして、地域を生み、最後に国ができてきたように思えます。大切なことは、彼らのように自分たちの住んでいる「地域」の課題に目を向けることだと思います。私は今まで地域の課題に無関心でした。でも、これからは足元を見つめ直して、自分自身から変えていきたいと思っています。

1年間で経験したこと学んだこと感じ

たことの全てを吸収する余裕なんてなかったように思えます。それに、この学びを一つのカタチにするまで、もう少し時間が必要みたいです。

大きなことを言ってしまいましたが、私は今春から社会人として働きます。自分のしたいことから少し離れてしまいます。でも、仕事の傍ら1年間で感じ考えたことを少しでも生活の中で実践していきます。そして、焦らずに次のステップへ繋げていきたいです。

本当に多くの人たちと出会い、助けあつての1年間でした。ありがとうございました。



思い出したら思い出に by 藤原



一期一会ということ by 藤原

タイスタディツアー報告

毎年恒例の年末年始タイスタディツアー。参加者レポートの一部をご紹介します。

国際協力の前に学ぶことがある

団体職員 田中悠紀子さん

私にとって今までの消費生活を考えさせられる旅となりました。今回このツアーに参加して、日本にいる自分の生活を振り返ることが多かったです。

「日本の伝統ってどんな事があるのだろう？ムキシーでは、土にシャンプーやリンスや洗剤を流し土が汚れてきているけれど、日本ではどうだろう？いつも目の前で排水溝の中に流れていくだけで目に見える汚れがないから何も考えていなかったな。ハンセン病について私は何も知らなかったな。日本にいるハンセン病の方は今どこに居て、どんな生活をしているのだろうか？」など、

たくさんの事を考え、振り返る事ができました。

私は、国際協力の仕事に憧れていたため、ツアーの中で坂西さんに色々とお話を伺うことが多く、その中でとても心に残った話があります。それは、パプアニューギニアの方が日本に来た時に、日本に木があることに驚いたそうです。なぜかという、彼女の住んでいた所に日本人たちが来て木を切っていくから、日本には木が1本もないと思っていたそうです。その話を聞いた時、日本の物資の豊かさの裏には様々な犠牲があることを知ると同時に、「日本の事、自分の足元をもっと勉強し、今私の関わっている子どもたちにも私の学んだ事を伝えていこう！それが今私にできる国際協力だ」と思いました。

私は、PHD協会の発展することだけがいいことではなくて、日本の発展

の裏に起こってしまった環境問題などをこれから発展していこうとしている国や、村の方に伝えていく、その考え方がとても素敵だなと思いました。今後も微力ながら協力させてください。

ツアーに参加してからの生活の変化。エコな生活を心がけるようになりました。(通勤は自転車となり、洗剤を使う量も減りました！)日本の環境問題について学習しました。子どもにコーヒーのフェアトレードについて知ってもらいたく、まずは一緒にコーヒー豆作りを体験しています！



メーホンソン県シードンチャイを中心とする「ルチョコ」とチェンマイ県ムキシーの「チョディ」の近況をご紹介します。

ミシンを使う

ルチョコの抱えている課題の一つは「ミシンを使える人が少ない」こと。メンバー27人のうち、3人がミシンを持ち、ミシンを使えるのは4人のみ。当会からの注文の主流は、反物やランチョンマットなどからカバンやポーチなどの加工品へと変わってきた。ブンシーさん(00年度)の研修項目の一つに洋裁があった。ミシンを使って布を加工することにより、製品の種類を増やし、国内外で売れる商品を作るためであった。



帰国後、彼女は日本で学んだことをグループに伝えてきた。しかし現在彼女が住んでいる村は、シードンチャイからバイクで10分。物理的距離、経済的負担に加え、幼い子どもたちを抱えて忙しく、ここ数年は活動に深く関わることができていない。ミシンを使える人が他の人に教え、技術が広がっていけばと思うが、メンバー自身がその必要性に気づき、取り組まねば続かないだろう。

一方チョディでは、メンバー20人のうち半分がミシンを使える。ミシンは6台、そのうちの2台はポーディーヤさん(06年度)が布のグループの小屋に置いた。そして時々彼女がミシンの使い方を教えている。グループとしての熱意と向上心、メンバーの結びつき、ポーディーヤさんの貢献が大きい。

次の世代に伝える

「若い人が染めや織に関心を持ってくれない」「新しいメンバーが増えない」という課題もあった。「お金にならない

織りなんかしないで、他のことをした方がいい」との声も。想いや伝統技術を次の世代に引き継ぐことは難しい。今回、ルチョコに新しく3名加わったと聞いた。そのうち2名は、結婚を期にシードンチャイ村に来て、グループに加入。若いメンバーの加入は新たな力になるだろう。

チョディは織りの伝統と技術を伝えようと学校で教える活動をしている。メンバーたちは、私たちに毎年新しい商品サンプルを見せて「来年これはどう？」と意欲的で楽しみながらやっている。ここに若いメンバーが加わればもっと元気になるだろう。

私たちは、布を通じた交流を続けている。今後の方向性については、また次号でお伝えしたい。(芳田弓生希)



チェンマイ県ムキシー

ブラチャックさん(98年度)

新居建築の木材は自分の土地の木や友だちの仕事を手伝って無料でもらっている。屋根は購入。新居建築で忙しく、店は週1回営業、ガソリンスタンドは毎日営業している。自給用の米ともち米(陸稲)、葉物野菜、唐辛子、バナナ、さとうきび、梅、パパイヤ、チークの木、みかん(まだ苗木)、なし、柿などを作り、豚は7匹いる。



チャューさん(07年度)

アサスマ(住民保健ボランティア)とベックラジャン(民生委員のような仕事)をしている。アサスマでは担当の15世帯を1週間で全て訪問し、血圧や糖尿病、マラリア対策、出産時の対応、乳幼児の栄養などについてアドバイスや予防の啓発を行う。仕事は忙しいが村の人に会うのは楽しく、「元気になった」という声を聞くとうれしい。ベックラジャンは2011年末からで、交通事故の検死、マラリアや簡単な病気への対応、葬式のお世話、飲酒運転をなくす啓発活動をしている。農業は保健の仕事が忙しいが、米、パパイヤ、コーヒーなどを少し作っている。

ポーディーヤさん(06年度)

米、落花生、赤豆、かぼちゃ、じゃがいも、さつまいも、白菜、唐辛子などの野菜と、車で2時間程の夫の出身村でコーヒーを作っている。新しい郡庁舎建設にともない、自分の田んぼにある砂を販売した。忙しいので、布のグループの活動は服の刺繍を少しするのと時々メンバーにミシンの使い方を教えている程度だが、遠方の人に頼まれ、反物の端を縫ってスカートにすることもあつた。



タイ北部 帰国研修生短信

メーホンソン県メーサリアン



スラチさん(02年度)

車で1時間ほどの山の村で精米業をしている。数日泊まって仕事をしパー村に帰る生活。精米後の籾殻は豚の餌として販売。他の精米所よりも安く精米しているの村の人に喜ばれている。スミナさん(妻)の体調がすぐれないため、農業は今ではできていないが、来年は田んぼをしたい。



ナロンテツさん(01年度)

車で4時間半、国境近くの山村にある学校(分校)で教えている。幼稚園生13人、小学2年生8人、3年生6人の合計27人で先生は3人。3週間程滞在しては、パー村に戻り数日後また分校に行く生活。学校で豚、鶏を飼い、野菜を作って、お昼ご飯にしている。「山の人の生活は自分たちよりも大変だし、仕事は楽しいからまだ続ける」と。妻と2人でゴミのリサイクルをし、売った分に自分のお金を足して、学校の子どもたちに服や靴を買っている。

サワンさん(98年度)

有機農業に専念。お米、にんにく、たまねぎ、パパイヤ、トウモロコシ(豚の餌)、白菜、空心菜などを作り、メーサリアンの市場で販売している。卵と肉用に鶏を20羽飼っている。



ポーディさん(99年度)

引き続きチェンマイの歯医者さんの家で家政婦をしている。休みは週1日。年に2-3回は2-3日休みをもらって村に帰っている。お母さんのために家を建てた。歯医者さんからは「ずっと一緒にいてください」と言われている。



アンボンさん(97年度)

店で近くの山の村から買った野菜や、チェンマイで仕入れたミカン、牛乳、コーヒーなどを販売。また地元で大豆、トウモロコシを買いチェンマイで販売。政府からの請負で学校、道路、灌漑、学校の寮などを整備する建設業も。

アピンさん(夫)が新居を作っていたが4月からバンコクへ出稼ぎに行ってしまう、未完成のまま住んでいる。長男キッティオンは小学生になったが、朝・晩の御飯をきちんと食べずお菓子大好きで困っている。次男タナコーは2歳。布のグループでの活動は育児で忙しく、今年はミーティングに2回だけ参加。家でコースターやカバンなどの刺繍しかできなかった。



ブンシーさん(00年度)

第31期生は4月10日来日予定です



ダリスマンさん
(インドネシア・20歳・男性)
＜研修予定＞
有機農業、保健衛生、住民組織化、協同組合



モーママさん
(ミャンマー・21歳・女性)
＜研修予定＞
保健衛生、住民組織化、協同組合



プレム・ドジュ・ラマさん
(ネパール・38歳・男性)
＜研修予定＞
有機農業、住民組織化、協同組合

〇月×日のPHD協会

「出先でのひとこま」

国内研修生 安本 1月の西日本研修。叔母が祝町での交流会にちらし寿司と煮豆を持って登場。嬉しい。岩村先生との出会いは小学校の時に読んだ子ども新聞。私よりも縁が深くてびっくり。

職員 川原 デリさんと一緒にRCの納涼例会に。デリさんは断食中で食事せず。一緒に食べずにいると「あなた大丈夫。食べて」と言われ、紳士さに感動。

職員 坂西 11月の東日本研修旅行、車内に7人と荷物満載して10日間。一人が風邪をひくと、後は順番に。結局ほぼ全員。分かち合い、ここでも実践中。

職員 井上 伊丹RCの謝恩会の為三宮集合。集合時間にこない研修生を探しに。見つからず元の場所に戻ると残り二人も居ない。あれだけ言ったのに。

職員 芳田 年末のタイツアー。8年前は夜の水浴びも平気。が、今回「お湯いる？」というポーディーヤさんの言葉に甘える自分。もう若くないなあ。

国内研修生 藤原 8月、上垣さん宅で養蜂研修。蜂の巣箱回収は早朝。真っ暗で軽トラの運転が不安。横でデリさん「あなた死ぬ、わたし死ぬ、一緒、大丈夫」。まじかよ、でも嬉しい。

職員 今里 西日本研修旅行最終日、神戸は大雪。北区のランマヤさんを送りに行くも凍結で立ち往生。恐怖の横滑りにランマヤ「私おります」とパニックに。

原稿書き上げが早かった順

PHD NEWS

◆会費・ご寄附寄託状況

10月	65件	¥6,048,862
11月	154件	¥1,391,052
12月	98件	¥2,345,498
1月	142件	¥1,513,980
459件		¥11,299,392

上記の通り多くの皆様より貴重なご浄財を賜りました。皆様のご協力に心より感謝を申し上げます。

◆日本語復習ボランティア募集します

第31期研修生の日本語復習ボランティアを募集します。

時間：月曜一金曜は16時～18時

土曜は午前中

場所：PHD協会事務所

◆来日報告会のお知らせ

第31期研修生の来日報告会を開催します。研修生の村の紹介、日本で何を学びたいかなどを報告します。ぜひ、ご参加ください。

日時：6月1日(土)14時～16時

場所：こうべまちづくり会館(予定)

◆会員意見交換会をやります！

初の試みです。会員の方へ2012年度報告及び2013年度計画を報告させていただき、ご意見をいただきたく思います。

日時：6月1日(土)10時～11時半(予定)

場所：PHD協会事務所

対象者：PHD協会の会員の方

申込締切：5月18日(土)

※会場に限りがありますので、事前申し込みをお願いします。

今年のスタディツアーのご案内

今年は、3年間お休みをしていたミャンマーにも出かけます。

一緒にませんか？

お問い合わせお待ちしております。

ネパール：7月27日～8月5日

ミャンマー：8月20日～27日

タイ(北部)：12月23日～1月2日



PHD オリジナル絵葉書は いかがですか？



8枚組で、500円。
季節のご挨拶などに。

ご注文・お問い合わせは・・・
電話、fax、Emailで受け付けております。